学校関係者評価委員会報告書

学校法人瓶井学園日本メディカル福祉専門学校は、令和７年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和８年９月１９日に学校関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和８年　９月３０日
学校法人瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校
学校長　瓶井　修

１．学校関係者評価委員

氏名	所属
太田　昌憲	社会福祉法人　宝塚市社会福祉協議会
北野　暢隆	社会福祉法人若葉会保育園こどものくに　園長
楢村　友隆	倉敷芸術科学大学　教授　、本臨床工学技士会　学術機構運営委員会 委員 臨床工学国際推進財団　設立者　理事

２．学校側出席者

瓶井　修	日本メディカル福祉専門学校　学校長
堀川　茂野	日本メディカル福祉専門学校　副校長
中道　和則	日本メディカル福祉専門学校　教務課長
平林　大佑	日本メディカル福祉専門学校　教務課長心得

３．議事報告

項目	評価・意見
⑴教育理念・目標	「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生･保護者等に周知されているか」についてはホームページ上で公開されており、周知されている。
(２教育課程、教育の実施 学修成果	指定養成校である為カリキュラム変更については臨床工学科、こども福祉学科ともに厚生労働省の指定カリキュラムのため、補佐的な講義実習となる。 臨床工学科では、全学年が新しいカリキュラムによる授業を行った。カリキュラム変更となったので新しい形での臨床実習を行った。病院での指導者の規定がなかったのが、勉強会に出席した者が指導者になるという内容になっている。見学、実際に行うという実習内容になっている。オリンパスの方に来ていただき、内視鏡実習を行った。硬性鏡と呼ばれるお腹を膨らませて手術を行う、カメラが付いたもので実習を行った。企業と連携する意味で、卒業生の特別講義やクリニックでの模擬実習を取り入れた。 人にどう伝えるか、コミュニケーションをゲーム形式で実習を行い、人に伝えることの難しさを知ってもらえるようにしている。

	こども福祉学科では当科でも本科生が減少している中で、待機児童解消施策にて実施されている職業訓練生を受け入れざるを得ないのが現状である。令和７年度はダブル資格（保育士・幼稚園教諭）を目指す学生が３名、トリプル資格（保育士・幼稚園教諭・社会福祉士）を目指す学生は皆無であった。 臨床工学科では、成績が伸び悩んでいる学生に対し、国家試験前の学生個人対応をおこなうことで国家試験合格率を全国平均を下回ったこの取り組みは今後も続けていく。 ４名の退学者がでており、体調不良による欠席が多く保護者と連携して連絡をとっていたが改善が見られなかった。 こども福祉学科においては、資格取得率については全員保育士資格取得させることができた。通学課程（本科生）では退学者を出すことなく、丁寧に関わり、単位取得に繋げることが出来た。
(３生徒の受け入れ生徒支援	月に一回ペースのオープンキャンパスイベントの実施、オンラインでのオープンキャンパスの実施、SNS の発信、ガイダンスへの参加、高校訪問などを行っている。臨床工学科では高校以外にも日本語学校への訪問に力をいれた。令和８年入学性は留学生の応募が増えている。学生の健康管理については年に１回健康診断も行っている。 保護者と適切に連携しているかについては令和８年度も保護者説明会を短時間で行った。保護者とは電話連絡などで連携の場を作っていく。
(４教育実施組織。教員	毎年教員にあ研修に参加させており、大阪府専修学校各種学校連合会が主催する指導力向上に関する研修への参加、および臨床工学、保育に関する専門分野での研修にも参加させている。また非常勤教員に関しても各専門分野に精通した教員をあてている。
(5)教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ十分な教育体制を整備しているか臨床工学科では新カリキュラムによる臨床実習を行った。実習の成果については報告会で発表してもらっている。臨床経験が十分な教員に、臨床実習前に学内実習を数を増やし、様々な取り組みを行っている。。 こども福祉学科では個別指導の機会を充実させているが、地域にある民間保育園の交流を行った。
(６教育活動の基盤と改善向上の取り組み	財務に関しては特に問題なし「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については意見をいただき改善できた部分と改善できていない部分がある。改善できていない部分については今後改善できるよう努力していく。自己評価はホームページで公開している。学習成果が国内外で評価される取組を行っているか」について、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。 学習成果が国内外に伝わるよう、ホームページを充実させ、情報発信を強化する。